

# 道博協ニュース

第37号

発行所 北海道博物館協会  
事務局 札幌市厚別区厚別町小野幌  
北海道開拓記念館内  
電話 011-898-0456  
FAX 011-898-2657

## 平成三年度博物館活動交流推進会議 全道ブロック館長会議終了する

去る十二月三日、四日の両

する講演が行なわれた。

日、平成三年度博物館活動交流推進会議の一環として、全道ブロック館長会議が、北海道博物館協会、道東三管内博物館施設等連絡協議会、帯広市教育委員会、北海道開拓記念館の主催によって、帯広市の帯広ステーションホテルを会場に開催された。この会議は昨年度の札幌会議に続いて、道内の博物館・園の館長、館・園の管理運営に関わる職員および教育委員会等の関係者が一同に会し、博物館・園をとりまく今日的課題について研鑽を深め、地域における博物館活動の充実、発展に資することを目的としたもので、全道各地から六十七名の参加者を数える研修会となった。

伊藤氏は、はじめにこれまでの学歴社会と学習社会との差異について明快に解説されたあと、学習社会では過去が問われるのではなく、現在の生き方、学習の姿勢が大切にされており、したがってその博物館・園の果たす役割が一層重大になっていることを指摘された。次いで、広く国内外の博物館・園を視察された経験を踏まえて、利用者側から見た館活動のあり方について言及された。その中には、長文で難解になりがちな展示解説文にもふれ、表現が「本当でないかも知れないが、嘘でもない」になったとしても長くて三百字が限度では、とのご意見には首肯する方も多かったようである。

このあと、十五時二十分研究会に移り、アイヌ民族博物館専務理事、岩崎誠一副会長の司会のもとに「博物館とボランティア活動」のテーマで三氏の発表が行なわれた。北海道開拓の村専務理事及川壮一氏は、昭和六十二年四月にボランティア制度が導入されて五年目になるこれまで



在の活動状況、さらに今後の展望などについて発表された。最後の帯広市百年記念館館長佐藤 昇氏は、館が博物館と創造活動センターの複合施設であることから、ボランティア組織も二部からなっていること、そのうち「帯広百年記念館友の会」は、昭和五十九年十一月に発足、百四十名の個人と十五団体より構成され、一方、「博物館ボランティアの会」は、ボランティア講座の終了者により平成二年四月に組織されていることなどの報告がされた。

実践活動を紹介されたほか、平成二年度に実施したボランティア会員を対象にしたアンケート結果などもこの制度の実態を知るのに参考になるものであった。

道立帯広美術館館長室田浩志氏は、平成三年九月に開館した新しい美術館のボランティア活動を展開するため、マスコミを通して会員を募集し、組織作りを進めた経過と、現在の活動状況、さらに今後の展望などについて発表された。

二日目は、市街地の南西2kmほどの緑ヶ丘公園内に位置する帯広百年記念館に参集し、ここで十勝の歴史について学んだあと、徒歩にて新装間もない道立帯広美術館に移り、

室田館長および解説員による  
オリエンテーション、ついで  
特別企画展「江戸のプリント  
アート展」、さらに「路上の  
ストローク展」、「岡部昌生展」

(事務局 山田 健)

## 博物館活動交流推進会議

### 道北ブロック学芸員等会議報告

今年度道北ブロックの博物館活動推進会議は十一月十五、十六日の両日、旭川市の旭川ときわ市民ホールを会場に開催された。参加者は上川、留萌、宗谷、網走の各管内博物館学芸員を中心に二十七名であった。

今回の会議運営にあたっては、準備段階から開催地の道北地区博物館等連絡協議会が中心となった。多忙な業務の合間をぬって会議のお世話をいただいた市立旭川郷土博物館、大雪クリスタルホール開設推進部の関係者の皆様に感謝の意を表します。以下日程を紹介します。

一日目、午後からの約二時間半、予定されていたテーマ「民具の取扱い方」をめぐる

を鑑賞した。閉会式はロビーで行なわれ、会議は盛会裡に終了した。

共同討議の時間もたれた。はじめに、現状報告、問題提起の意味で上田良博大雪クリスタルホール開設推進部主催が市立旭川郷土博物館における民具の取扱い方、とくに資料整理、保存の現状について、矢島 貴北海道開拓記念館主任学芸員が同館に收藏されている民具資料の現状と調査研究の取り組みについて、同丹治学芸員が日本民具学会、北海道・東北民具研究会など、全国レベル、地方ブロックの民具研究組織の設立経過と活動状況について、それぞれ報告があった。

その後の討議では、市町村の博物館、資料館の收藏資料として中心的な位置を占める民具であるだけに、鉄製品、革製品、わら工品などの保存

処理について、資料補修にあたっての留意点、普及行事用のわらの入手法法について、農機具などの資料収集で直面している問題など、日常業務の中での実践例や疑問点が次々と出されていた。また、旭川郷土博物館で数年前から実施しているボランティアを募った資料調査員制度や、収集した農機具などの資料は丹念に清掃したのち、必ず新着資料として一定期間展示するシステムをとっている美幌博物館の例などは参考になった。しかし、同時にまた、展示、調査研究、普及行事などとの関わりで博物館活動の重要な役割を占める民具であるが、本州府県に比べ北海道はその取組みが低調である現状も感じさせられた。どこの博物館でも、基礎となる收藏資料の整理、記録票整備などが当面の課題となっている現状がそれを反映しているように思われる。この点、北海道開拓記念館が博物館施設のネットワークづくり事業の一環として進めている道内博物館施設の

收藏資料目録の刊行計画では、平成四、五年度には産業・生活資料を対象にする予定で、これが、各施設の関係資料の内容把握を進める機会になればと期待している。

共同討議の後、会場を移しての交流会がもたれ、なごやかな雰囲気の中で有意義な一時を過ごした。

会議二日目は午前の日程で、「道北の近世」をテーマに二人の講師による講演会が開かれ、一般市民にも公開、約五十名の参加があった。

中村和之道立札幌稲西高校教諭の「中国史料よりみた山丹交易とアイヌ」は元、明、清代のアムール川下流域、サハリンに関する中国側史料に構としての辺民制度に編成されていく流域諸民族、カラフトアイヌのようす、山丹交易の実態を紹介された。

続く、秋葉 実松浦武四郎研究会代表による「松浦武四郎のみた道北地方」は、「東西蝦夷場所境目取調書」にみえる石狩場所のシノロ(深川)

についての紹介、上川アイヌとオホーツク海側の浜ユウベツ、山ユウベツアイヌとのつながりなどについてが主であった。いずれも近世の道北地方を認識する上で大変興味深い内容であった。

博物館活動交流推進会議には、今回の会議の他、昨年度、今年度の全道ブロック館長等会議、昨年度の道東ブロック学芸員等会議(釧路)に参加する機会を得た。三ブロックでの学芸員等会議も、来年度は三年目を迎える。内容的にもさらに充実するための工夫が必要になってくると思われる。そのためには、たとえば研究討議については、日頃の学芸員の研究内容の紹介、研究発表を中心に進めることなどが検討されてもよいのではないかと思う。いずれにしても、学芸員資質の向上と、博物館施設間の連携を深めるために交流推進会議がさらに発展することを期待したい。

(事務局 丹治輝一)

## 博物館活動交流推進会議 道南ブロック学芸員等会議報告

標記の会議が平成三年十一月十四日・十五日に江差町文化会館小ホールにおいて開催されましたのでその報告をします。

道南地区(渡島・檜山管内)の博物館・園の関係者が一堂に集い、ネットワーク化について活発な意見が交わされ、この会議において「道南ブロック博物館施設等連絡協議会」が正式に発足しました。

道立函館美術館の講堂において、同会の準備会が開催されたのは、平成二年十二月七日・八日のことであった。この間の動きに関しては「道博協ニュース」第33号に市立函館博物館の岡田一彦氏が詳細に述べておられますので重複をさします。

今回の会議は主催者、開催地のあいさつの後、平泉郷土地の館長荒木伸介氏による「地域における博物館活動のあり方」と題しての講演があり、

続いて会則の協議に移り、全会一致で以下のような会則が承認された。

平泉郷土地館をはじめとする氏の経験豊かな博物館活動の取り組みからユニークでユーモアを交えたお話をいただいた。



午後から、「道南ブロック博物館施設等連絡協議会」設立のための具体的な協議がなされた。準備事務局を担当された市立函館博物館館長木村繁氏から今日の会議をもつに至った経過説明があり、このなかで現時点で渡島・檜山管内合わせて二団体・十二施設が加入を表明している旨の報告があった。

第一条は名称を「道南ブロック博物館施設等連絡協議会」とし、第二条では会員を「渡島・檜山管内に設置された博物館及び博物館に相当する施設並びに、この会の趣旨に賛同するものをもって組織する」とし、さらに団体会員と賛助会員を区分している。第三条は、目的として「会員相互の連絡提携をはかり、博物館事業の振興発展に寄与する」としている。第四条は、目的達成のための事業として、

一、会員相互の情報交換・連絡提携、二、会員相互の資料の貸借及び斡旋、三、博物館資料の調査研究、四、講演・会・研修会・展覧会・企画展等の実施及び後援、五、その他本会の目的達成に必要な事業としている。

第五条から十九条まで、役員やそれぞれの内容、役員会、総会等、会費等を規定している。

会則の承認後、役員選出が

行なわれ、会長に市立函館博物館館長木村繁氏、副会長に函館五稜郭タワー史蹟館代表者中野豊氏と江差町教育委員会教育長(郷土資料館館長)澤田静憲氏、理事に熊石町教育委員会教育長(歴史記念館館長)植杉幹雄氏と八雲町教育委員会教育長(郷土資料館館長)長谷川進氏、監事には今金町教育委員会教育長遠藤正光氏と知内町教育委員会教育長(郷土資料館館長)田島隆氏を選出した。

役員を代表して会長に選出された木村館長より、「今後、具体的な交流活動について、充分協議を重ねながら加入会員の要望に貢献できる活動をめざしたい」との発足のあいさつがありました。

今後は加入団体の促進を図りながら、会の目的を果たすために、具体的協議を重ね、できることから手をつけていきたいと思っております。

渡島・檜山といいますが、共通の歴史として松前藩や箱館戦争などがあります。各館が收藏している資料を互いに



把握し合い、特別展や企画展、さらには複数市町村の協力による移動展の開催、また歴史系学芸員と自然系学芸員のそれぞれの交流による相乗効果などがこれから検討されることになると思われまます。

会議終了後、席を移して懇親会が開催され、十一月の江差では珍しい小雪まじりの悪天候の中、多くの方が参加され、各館園の現状やこれからの会の運営内容などに活発な意見が交換され、有意義なひとときを過ごした。

(江差町教育委員会  
藤島一巳)

## 博物館活動交流推進会議 道央ブロック学芸員等会議報告

平成三年十一月二十八・二十九日の両日、平成三年度博物館活動交流推進会議（道央ブロック学芸員等会議）を浦河町生涯学習センターで開催した。

この会議は石狩・後志・空知・胆振・日高管内に所在する博物館・園に勤務する職員及び教育委員会等の関係職員が一堂に会して、地域における博物館・園の相互援助と連携、協力体制のあり方、博物館活動の充実、発展の方途について研究協議し、博物館・園の振興に寄与することを目的としたものである。主催者側として、矢野牧夫学芸部長をはじめとした北海道開拓記念館職員が来浦されご尽力いただいた。

会場には当館を含め二十施設二十五名もの関係者が参加した。第一日目は、開会式終了後の午後二時より早稲田大学の桜井清彦教授による講演から始まった。

調された。

この講演には関心の深い一般市民の方も多数出席し、先生のホットな情報に耳を傾け熱心にメモをとるなど大変好評であった。

暫時休憩の後、研究協議に移り苫小牧市博物館の佐藤一夫館長より『道央ブロックの博物館・園のネットワーク化について』のテーマで、博物館・園のネットワーク化の流れ、道内館・園のネットワーク化の現状と内容、ネットワーク確立後の関連事業等の内容の提言をいただき、室蘭市民俗博物館の久末進一主幹学芸員の司会で進行された。

先の提言に対し、ネットワーク化を具体的に推進する際の事務局の担当及び日常業務への影響、ネットワーク化の範囲について等、懸念される問題課題点が質疑応答された。これらの内容について、北海道博物館協会の黒崎康雄理事と早稲田大学の桜井清彦教授よりご助言をいただき、今後、実現に向けての第一歩を踏み出すことを確認して研究協議



を終了した。午後六時三十分からは、会場を移して懇親会を開催した。普段なかなか顔を合わす機会が少なく方も多く、挨拶や情報交換がにぎやかに行われた。さらに、懇親会を深める自己紹介で近況報告がなされる中で、桜井先生を核とした海



ザン号と対面した。参加者の中には特に期待するものがあったようで、シンザン号との記念のシャッター音にその対面の喜びが感じられた。最後に、農水省家畜改良センター日高牧場の資料館と展望台から同牧場の二千四百ヘクタールもの広大な敷地を眺望し浦河ならではの景観を堪能していただき、馬づくしの見学会を終えた。

正午、浦河町生涯学習センターで閉会式を行い、無事全日程を終了した。

最後に、今会議の開催地を受諾したものの、これが道央ブロックにおける最初であるという重責に対する戸惑いがあったが、どうにか盛会裡の内に終了することができた。

これも偏に参加者並びに関係各位のご協力ご指導の賜と、あらためて深く感謝申し上げますと共に、皆様の益々のご健勝と館・園のネットワーク化実現を祈念して会議の報告とする。

（浦河町立郷土博物館

谷岡康孝）

記載が見られるなど当遺跡の歴史上における位置づけや、砂漠地帯の環境により建物の柱や壁の一部が現在も残っている様子など大変興味深い遺跡の状況をスライド映写を交えて、その貴重な文化遺産について一層の文化財保護の必要性を痛感していることを強

## 館 園 紹 介

## 北海道立帯広美術館

北海道立帯広美術館は、札幌の近代美術館と三岸好太郎美術館、旭川美術館、そして函館美術館について五館目の道立美術館として帯広市に昨年四月に設置され、九月に開館しました。

帯広市は、日高山系を西に連ね、東大雪の山並みを北に望む広大な畑作地帯を背景として発展してきた十勝平野の中心に位置する都市です。

美術館は、市の中心部の緑ヶ丘公園内の、帯広百年記念館や児童会館などと隣接する文化ゾーンに立地しています。

美術館の建物は、道立の施設としては初めて行われた設計コンペで一位となったプランをもとに設計されたものです。

鉄筋コンクリート平屋建てで、大理石の外壁に、ガラスとアルミ板を巧みに組み合わせた斬新なデザインの建物です。延床面積は、二千五百平方メートルとなっています。

玄関前の広場には、プール

デルの『勝利』のブロンズ像(三・七メートル)を当館のモニュメント彫刻として設置しています。

入口より館内に入ると、吹き抜け天井でガラス張りを主



とした明るい開放的なロビーが広がっており、周囲の公園の自然が十分に楽しめるように工夫されています。

この建物の内部には、コレクション・ギャラリー(常設展示室)、主展示室、講堂、喫茶コーナー、収蔵庫、館長室、事務室、資料室、などがあります。

カーペットを敷き詰めたコ

レクション・ギャラリーは、ドーム天井の柔らかな間接照明により、落ち着いた雰囲気です。ここでは当館の所蔵品によるテーマ展を随時開催します。

主展示室は、特別企画展の会場となるスペースで、中庭をはさんで二部屋に分かれ、ガラス張りのブリッジで結ばれています。

当館は、すぐれた美術作品を系統的に収集し、特色あるコレクション作りをめざすため北海道立美術館作品収蔵計画に示された基本方針にもとずき、『道東の美術』と『版画を中心としたプリントアート』の二つを柱として積極的な作品収集に努めています。

これまで、神田日勝、能勢真美、矢柳剛、池田良二をはじめとする道東ゆかりの作家たちの作品、ミレーやコロ

ーを中心とするバルビゾン派の油彩画や版画作品、ロートレック、ボナールをはじめとする世紀末パリの石版ポスター、一原有徳、原州一等の現代のプリントアートなど、

特色あるコレクションがまともに見せつあります。

生涯学習時代を迎えた今日では、美術館の果たす役割はますます重く、利用者のさまざまな知的欲求に応える運営が求められています。当館の教育普及事業としては、展示と結びついた『美術講演会』、『特別展セミナー』、『土曜映画室』をはじめ、団体観覧者へのオリエンテーションをきめ細かく実施するなど、誰もが

が楽しみながら学ぶことのできる知的なアート・スペースの実現をめざしています。



★開館時間  
午前十時から午後五時まで  
(入館は四時三十分まで)

## ★休館日

月曜日・国民の祝日(夏期の八日間は臨時開館)・年末年始・展示替等による臨時休館日。

## ★観覧料

常設展示観覧料

小学生 四〇円(三〇円)  
高大生 六〇円(四〇円)  
一般 一〇〇円(八〇円)

\*カッコ内は十人以上の団体料金。

\*特別展示の場合

一人につき、三三〇円以内で知事が定める額。

## ★交通

JR帯広駅よりJR北海道バスで自衛隊前行きまたは畜大農場前行き、児童会館前下車徒歩一分。またはタクシーで約十分。

駐車場、緑ヶ丘公園内駐車場(無料)。

## ★問い合わせ先

北海道立帯広美術館  
〒〇〇 帯広市緑ヶ丘二番地  
☎〇一五五二二一六九六三

(北海道立帯広美術館

学芸員・光岡幸治)

## 館園紹介

### 北海道電力

#### 原子力PRセンター

##### 「とまりん館」

原子力PRセンター「とまりん館」は、平成三年六月二十二日に開館しました。

当館は、入館されるお客様とのふれあいを通じて楽しみながら原子力発電に親しむもっていただくことを目的とした新しいタイプのコミュニケーションセンターです。このために展示棟の他に温水プールを併設しています。

開館後約半年たった昨年十二月までに約十二万人の方々にご来館いただきました。

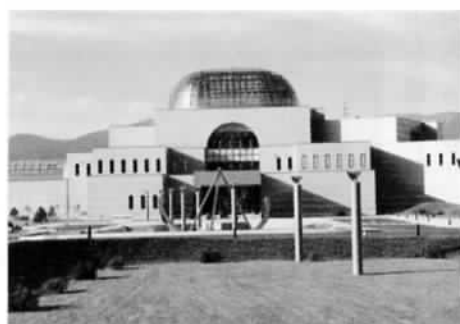
当館の愛称「とまりん館」は、地域の皆様方への愛称募集により泊発電所のマスコットキャラクター「とまりん」からとりました。

「とまりん館」は、アトリウム棟、展示棟およびプール棟からなりますが各々簡単に内容紹介いたします。

アトリウム棟は、展示棟とプール棟のはし渡しの役割を

果たす自然光ふりそぞろ四階吹き抜けの大ホールになっています。噴水、ヤシの大木、熱帯魚が泳ぐ水槽などを配し南国ムードあふれるスペースになっています。

展示棟の二階は、地域展示コーナー。ここでは地元、西積丹の自然、地形地質、歴史



化財研究所による発掘調査の出土遺物を保管展示しています。一、二階のオリエンテーションホールは、百八十名収容、二百五十インチスクリーンの小劇場。ここでは、各種フィルム、ビデオはもちろん衛星放送・ハイビジョン放送にも対応可能になっています。通常定時上映では、北海道の自然と歴史・エネルギーをテーマにした映像を上映しています。インターラクティブ映像では、お客様がアンケート、クイズなどに回答し、楽しみながら画面参加することもできます。最近では、NHKのハイビジョン試験放送も受信上映しています。

一階の原子力展示では、実物大の燃料集合体・制御棒・

しだされ、約八分間で原子力発電の仕組みや運転のしかたをわかりやすく解説します。なお「とまりん館」からは発電所を望むことができないため、構内をご案内するシャトルバスを定時に運行しております。

科学展示では、科学の原理



原子炉容器のカット模型などを中心に各コーナーごとにパネルやCRT画面によるQ&Aを設置するなどして原子力発電をわかりやすく紹介しています。ここでの目玉は、泊発電所の二十五分の一カット模型のマジックビジョンです。模型の中に技術者と妖精が写

を応用した展示で、遊びながら科学の不思議を体験していただきます。遊びを通して自然に科学に親しめるよう配慮しました。プールは、一年を通して利用できる温水プール。二十五メートル・五レーンの競技用、滑り台付きの子供用プール、

泡風呂等があります。プールの温水は、クリーンエネルギーの空気熱源ヒートポンプの熱でまかっています。この

プールは、昨年十二月末現在までに約二万三千人の方々にご利用いただきました。また、地元の小中学校のプール学習にも利用されております。

##### 〈とまりん館案内〉

##### ★所在地

〒047-3 古宇郡泊村大字堀

株村字古川四五番一

##### ★電話番号

〇三五一七五―三〇〇一

##### ★開館時間

展示棟 九時～十七時

プール棟 十時～二十一時

##### ★休館日

月曜日、年末年始

##### ★入館料

無料

##### ★交通案内

中央バス神恵内線(岩内タ

ーミナル発)「原子力PR

センター前」下車

(原子力PRセンター

「とまりん館」

館長 館岡諒吾

## 北海道博物館略史 (6)

## 二、博物館政策の転換

## — 明治中期 —

北海道の三県一局時代から北海道庁時代の初期、即ち明治十年代後半から二十年代後半にかけてのほぼ一〇年間は、博物館政策の上からも大きな転換期であった。

函館においては、開拓使、函館県が設立した博物館が道庁に引継がれた後、函館商業学校の商品陳列場となり、学校博物館の性格を強める一方、道庁は勸業政策として水産陳列場を新たに開設した。しかし、学校博物館は定着せず、



札幌農学校所属博物館(内部)

水産陳列場即ち産業博物館に統合されるにいたった。

一方、札幌では、開拓使の設立した博物館が札幌農学校の所屬となり、近代的博物館の諸機能を備えた総合博物館に成長するが、道庁は勸業政策の一環として物産共進会の開催に力を注ぐと共に、新たに常設の物産陳列場(産業博物館)を開設したのである。

勸業政策の一環として、物産陳列場などの産業博物館が開設されたのは当時の全国的な傾向であるが、大学など高等教育機関所屬の博物館は全国的にはほとんど見られず、農学校所屬博物館は特異な存在であった。

## (1) 札幌博物館の農学校移管

札幌博物館は、施設だけでなく、職員、資料の面でも充実し、地方における特色ある総合的博物館として発展しつつあったことは、既にふれた

が、明治十七年六月、札幌農学校への移管が決定した。

先にふれたように、当時、札幌農学校には博物館が置かれていたが、資料が少なく、

開拓使が廃止された際に、東京出張所の博物館から移管された資料が中心となっており、資料の充実が課題とされていた。そこで、札幌博物館を農学校の所屬として、両施設を一体的に運営し、資料の交換と職員の交流をはかることにより、博物館は勸業施設としてそれぞれの機能の向上を期待したのである。

当時、札幌農学校と札幌博物館を管理していた札幌農学校事務所は、共に農商務省北海道事業管理局の管轄下に置かれていたので、移管手続きは順調に行なわれ、八月に完了した。

この博物館には、明治十八年に収蔵庫が新設された。それまでの仮博物館や博物館には収蔵庫がなく、陳列と収蔵の機能が未分化の状態にあったが、この収蔵庫の建設によ

って陳列場が一新され、この博物館は、調査研究、収集、展示、保存の諸機能を備えた近代的博物館になった。

明治十九年三月、農学校内の博物館が博物館に合併され、資料が一層充実した。明治二十八年に博物館と改称され、三十三年には洋風木造平屋建寄棟造の事務所が新設された。

明治四十年九月、札幌農学校が東北帝国大学農科大学になると、この博物館も附屬博物館と改称された。明治四十二年十月の「處務規程」によると、博物館の分掌事務として、陳列品の保管、標本の採集及び調整、内外国博物館と標本交換、縦覧人及び館内取締の四項目をあげている。

この博物館の主な設置目的は、北海道産の動植物標本及びアイヌの民具を収集・陳列して学生の研究に供することにあつたが、一般公衆の便宜をはかり、四月から十一月にかけて、毎週日曜日から水曜日に限って縦覧を認めた。

『札幌博物館案内(明治四十三年)』は「衆庶の縦覧を許す

を以て本道の普通教育上に資する少なからざるのみならず、本道に來遊する者をして特趣ある本道の天然物の形状を窺ひ知らしむるの益あり」と記している。明治四十年には、四月十五日から十月三十一日まで五八日間開館し、一四、三二七人(一日平均二四七人)が參觀している。

明治四十一年の資料点数は一、二、三、五〇点で、列品ははじめは、天産、勸業、史伝、図書、写真の四門に大別されていたが、四十一年には動物標本類、植物標本類、人類学標本類、鉱物及岩石部門に大別されている。

## 〈主な参考文献〉

前掲「明治期における北海道の博物館」(2)

## (北海道開拓記念館

開拓の村整備室長

関 秀志)

◇館・園の主な行事計画◇

2月～3月

●札幌市資料館

3・29まで「赤煉瓦」とその周辺展

●札幌市青少年科学館

3・1「気象教室」、「日曜実験室」、3・20～4・5 春休み特別展「(仮)ロボット探検館」、3・26、27「マイコン教室」

●札幌芸術の森

2・8～3・22「収蔵品展」

●北海道開拓記念館

3・12～13 博物館実習講座シリーズ「遺跡発掘調査における分析試料の採取・処理法」

3・28 講演会「北海道の開拓政策」

●北海道開拓の村

2月毎週土・日・祝日 伝統遊具づくり「竹スキー」、3月毎週土・日・祝日 伝統遊具づくり「折りびなと折り紙」

2・25～3・3 年中行事「ひなまつり」、3・8～3・31 第6回北海道開拓の村写真コンテスト作品展

●北海道近代美術館

コレクシヨンギャラリー

2・7～3・29まで「装いの婦人像」、「日本のガラス—そのかたちと彩」

●北海道立三岸好太郎美術館

1・31～3・31「所蔵品展第Ⅵ期 蝶と貝殻」、2・29 第15回美術館ミニ・リサイタル、3・28 第16回美術館ミニ・リサイタル

●恵庭市郷土資料館

2・1～3・22 新収蔵資料展

●江別市郷土資料館

3月「蕨細工体験」

●北海道立函館美術館

1・5～3・26 特別展「パリのエスプリ」、深井克美—幻想の世界

●小樽市青少年科学技術館

2・23「プラネコンサート」、3・21～ビデオシアター ●夕張市石炭博物館 2月上旬～3月上旬「炭鉱のレコード展」

●北海道立旭川美術館

2月 展覧会 2・22～3・25「子どもと親の美術館'92」、2月中旬「ミュージアムシアター」

●市立名寄図書館郷土資料室

3月雪上観察会 ●網走市立美術館

2月中旬 写真道展移動展

●苫小牧市博物館

3・1～3・29 第22回特別展「北海道の貝類展」

●苫小牧市科学センター

3・27～28「親子紙づくり教室」、2・3月(毎土曜日)「天文教室」

◇平成三年度日本博物館協会顕彰について◇

平成三年十二月九日・十日に、東京都の国立教育会館で開催された第39回全国博物館大会で、下記の方が顕彰を受けました。

4号規定 斜里町知床博物館 小泉 昇 1号規定 浦幌町郷土博物館 後藤秀彦

小樽市青少年科学技術館 佐藤郁雄・長田 等 札幌市資料館 木原武男 北海道開拓記念館 佐藤栄子・山本雄三・氏家 等 市立函館博物館

岡田一彦・千代肇(元)

◇新入会員◇

(個人会員)中村文雄

また、これまでの滞納分につきましてもよろしくお願ひいたします。

記

(会費)

団体役員 一五、〇〇〇円

個人会員 三、〇〇〇円

(取扱銀行)

北海道拓殖銀行 新さっぽろ支店

普通口座 01861

287000

(郵便振替)

小樽 七一二九四一七

○事務局からのお願ひ○

道博協ニュースへの原稿を募集しております。

各館園の動向、トピックス、新着資料や展示紹介、各会員のご意見等をおよせください。

字数等の詳細については事務局までお問い合わせ下さい。

○事務局からのお詫び○

担当者の手違いにより、道博協ニュースの発行が大変遅れたことをお詫び申し上げます。申し訳ございません。

○会費納入のお願い○

本協会の円滑な運営のため、平成3年度の会費の納入を左記によりお願いいたします。

11・15～16 同・道北ブロック学芸員等会議を旭川市で開催。

11・19 日本博物館協会より平成3年度協会顕彰者の決定書受理。関係館園に通知。

11・28 浜頓別町より第31回北海道博物館大会開催についての承認書受理。

11・28～29 道央ブロック学芸員等会議を浦河町で開催。

12・3～4 全道ブロック館長会議を帯広市で開催。

12・4 平成3年度第二回道博協役員会を帯広市百年記念館で開催。

○事務局長からのお詫び○

担当者の手違いにより、道博協ニュースの発行が大変遅れたことをお詫び申し上げます。申し訳ございません。